



学校だより

10月号
横浜市立桜台小学校
令和4年9月30日発行

ナイス スウィング！

教務主任 鈿持 裕司

9月初旬の懇談会には、各学年、多数ご参加いただきありがとうございます。担任の話や夏休みの作品などから子どもたちの様子を感じていただけましたでしょうか。月末には運動会があります。子どもたちにとっては、活動量も増え、心身ともに夏休み明けからの疲れが出る時期でもあります。引き続き、お子様に寄り添って見守ってまいりますので、各家庭でもご支援のほどよろしくお願いいたします。

さて、メジャーリーグ、エンゼルスの大谷翔平選手は二刀流として活躍しています。さらに今シーズンは打撃部門、投手部門ともにトップレベルの成績を残しています。大谷選手がメジャーデビューするときにも二刀流に対して、「どのくらいできるか楽しみだ」「打者一本の方がいい」「両立できるほどプロはあまくない」と賛否両論ありました。その不安視する声を一掃するほどの現在の活躍です。この活躍を見て、「本人の挑戦する気持ちの強さ」を感じずにいられません。

物事は「失敗したら・・・」と考えてしまうのが定石です。しかし、現在社会で求められている人材は常識打ち破るような人材だと聞いたことがあります。固定観念にとらわれず、結果を残すことができる力が今の社会で必要とされています。まさに、大谷選手のケースと重なります。

このことから考えられるのは、子どもに「どう挑戦させるか」また「失敗をどう捉えさせるか」が重要だということです。成果をおさめたり、自身のレベルアップを図ったりするには、「挑戦」は必要です。しかしながら、挑戦には失敗がつきものです。「失敗したくない」と誰もが思うものです。ここで周りの大人が失敗をどう捉えさせるかです。「成功への糧」と考えられるようにしたいものです。「挑戦したことへ気持ち」を評価したり、「チャレンジすることへの納得感」をもたせたり、そして、実際に安心して取り組める環境づくりをすることが必要だと思います。

先日、夏休み明けの全校朝会で校長が「挑戦することが大切。成功の反対は失敗ではなく、成功の反対は無なので、行動しないと成功はない」という話をしました。（本校HP「学校日記」に掲載）

私は幼い頃から野球をしています。少年野球時代に「見逃し三振」はよくなくて、思いきり振った結果での「空振り三振」はよいという教えがありました。そして、「思いきり振った結果での三振をした味方の選手に『ナイス スウィング！』と声をかけなさい」という教えもありました。この教えに気持ちが楽になったことを覚えています。気持ちの迷いが成功への壁になってしまうことはよくあります。だから、この教訓は数十年たった今でも私の心に刻まれています。

実際、結果は気になるところではありますが、併せてどのように取り組んだかを評価してあげる姿勢も大切だと思います。

選手は一生懸命素振りの練習に取り組み、本番に向けて準備をします。打席を見守る周りの人は全力で応援し、結果は三振でもその姿に賛辞を送ります。そして、本人を含めみんなが納得できるようなその姿を大いに認め、三振はきっと次のヒットにつながっていくことを信じて、児童の活躍を見守っていきたいと思います。

